

# 滋賀・大戊亥遺跡

- 1 所在地 滋賀県長浜市大戊亥町・勝町
- 2 調査期間 一九九三年(平5)四月～一〇月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 吉田秀則・重田 勉
- 5 遺跡の種類 祭祀跡
- 6 遺跡の年代 八世紀末～九世紀初頭
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(長 浜)

大戊亥遺跡は琵琶湖の北東部に位置しており、その北方には湖北の大流、姉川が流れている。古くから長浜平野には姉川の氾濫により無数の支流が形成され、発掘調査においても多数確認されてきた。当遺跡では過去の調査において、人形代・斎串などの祭祀遺物や比較的規模の大きい掘立柱建物などが検出されており、公的施設が存在が考えられてきた。

今回の調査では、奈良時代～平安時代初頭の遺物を包含する自然流路や、若干時期が新しい掘立柱建物などが検出され、自然流路からは多量の祭祀遺物が確認された。現在のところ、人形代二一点、斎串五〇点以上、その他祭祀に関連すると思われる木製品・鉄製品・動物遺存体などがある。土器も多量にあり、主に須恵器と土師器であるが、須恵器の形態を有した土師器、いわゆる湖北地方独特の「赤い須恵器」や、墨書土器(判読不能)、奈良三彩などもある。木簡はこの自然流路から出土した。

なお、祭祀遺物は遺存状態が良好で、祭祀の行なわれた場所(今回の調査地点よりやや上流「北東方向」か)からの移動距離も短いと考えられる。当時の祭祀形態をそのまま保っている可能性があり、貴重な資料となる。また、当遺跡の東方には、第一・第二次の坂田郡衙推定地とされる、大東遺跡・宮司遺跡があり、今回出土した遺物は諸国大祓に伴うものとする考え方もある。

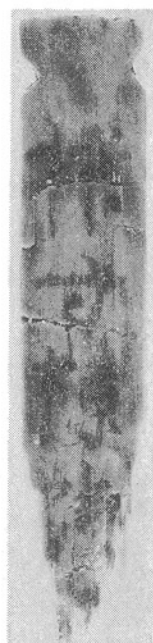
## 8 木簡の積文・内容

### (1) 「〱播寸椶御

(115)×22×4 033

木簡は頭部左右に切り込みがある荷札状のもので、下端部は欠損しているが、下端を尖らせる形状をとると判断されるので、完形の長さを大きく下回るものではなさそうである。なお四字めは「伴」の可能性もある。

(重田 勉)



# 木簡研究 第一四号

卷頭言

八木 充

一九九一年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京左京二条二坊坊間路西側溝 平城京東市跡  
推定地 唐招提寺 藤原京跡 飛鳥池遺跡 四条遺跡 長岡京跡(1)  
長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 遠所遺跡 木津川河床遺跡 大坂城跡  
住友銅吹所跡 桑津遺跡 竜華寺跡 高槻城跡 堺環濠都市遺跡  
屏風遺跡 長田神社境内遺跡 宅原遺跡 袴狭遺跡(1) 袴狭遺跡(2)  
(旧坪井遺跡) 光明寺遺跡 西河原森ノ内遺跡 西河原遺跡 湯ノ  
部遺跡 石川条里遺跡 内匠日向周地遺跡 小茶円遺跡 富沢遺跡  
多賀城跡 円福寺遺跡 田道町遺跡C地点 上荒屋遺跡 山田郷内  
遺跡 稻城遺跡 吉野口(鯉山小)遺跡 三門市遺跡 長登銅山跡  
空港跡地遺跡(第3工区) 雀居遺跡 興善町遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一四)

平城宮跡(第五〇・五一・五二・六三次) 上田部遺跡

郡家今城遺跡 郡家川西遺跡 じょうべのま遺跡 高瀬遺跡

考古資料としての古代木簡

八幡林遺跡等新潟県内出土の木簡

木上と片岡

下級国司の任用と交通―二条大路木簡を手がかりに―

「敦煌漢簡」研究の現状と課題

彙報

山中 章  
小林 昌二  
岩本 次郎  
鈴木 景二  
吉村 昌之

頒価 四五〇〇円 千五〇〇円